



公明党
永尾 邦忠
議員

▼島原半島三市における島原市の位置づけについて

Q 道州制が話題となっているが、島原半島の中長期展望はどう考えているのか。

A 人口減少や高齢化に加え、今後は厳しい財政運営も予想されており、島原半島三市のさらなる連携の必要性を感じている。また、道州制は基礎自治体の市、町の役割がより重要になる。定住自立圏構想等でも本市は中心市に位置づけられており、そのような役割を認識しながら、半島全体の発展に向け努力したい。

▼赤ちゃんオムツ支援事業について

Q 子育て、少子化対策への重要な施策なのか。高齢者の方へのおむつ助成を増額しているのか。

A 健やか子育て支援事業などの現在のサービスを継続しながら、新たに赤ちゃんオムツ支援事業により、子育てに係る経済的負担を軽減することで、一人でも多くの子

供たちが産まれ育つことを願い、少子化の流れに少しでも歯止めをかけたいと思っている。高齢者の方へもさまざまなサービスがあるので、今後総合的に考慮したい。

▼フレックスタイム制度と土日開庁について

Q どのような方向性を考えているのか。

A 土日開庁は続けていくが、効率的な対応方法を検討したい。その上で、例えば開庁の一時間ぐらい前から市民の方が来庁されれば、証明書等を受け取ることができるようなイメージを持っている。

▼投票入場券について

Q 期日前投票宣誓書を印刷した効果、影響及び市民の反応はどうか。

A 衆議院議員選挙では、半数以上の方が期日前投票所に入る前に記載をしていたので、手間が省け、投票時間の短縮が図られたと思う。今後はより多くの市民の方に利用していただけるものと考えている。

Q 今回はかなり混雑したようだが、今後の対策はどう考えているのか。

A 廊下に宣誓書を記載するテーブルを設けたり、空間をできるだけ拡張して、よりスムーズに投票できるようにしたい。



市民の会
草野 勝義
議員

▼地域公共交通への支援について

Q 地域公共交通への理解と、島原鉄道への支援策について、市長の考えはどうか。

A 公共交通を取り巻く環境は大変厳しいと認識しているが、沿線住民の生活の足として、また、交通弱者の移動手段として鉄道の存続は必要不可欠であり、市として支援策を検討していく。

Q 福祉バス運行の検証について、市長の考えはどうか。

A 現在、高齢者や障がいをお持ちの方に、公共交通機関の利用に対し助成をしている。路線バスの実証運行や利用実態の検証結果を踏まえ、特に高齢者の買い物や通院等、交通事業者と相談しながら検討したい。

▼所信表明の検証について

Q 市民力の結集とは、どういうことか。

A 本市の各種課題を解決していくために、市民皆さんと一緒に考え、情報を共有

し、市民一人一人が主役として、ともに取り組んでいただくことが不可欠であり、そうした市民力の結集が今後ますます重要になっていくと考えている。

Q 役所機能の分散化とは、具体的にどのように考えているのか。

A 島原と有明両地区の均衡ある発展のため、本庁舎に機能を集中させるのではなく、有明庁舎の役所機能を維持しながら有効に活用する必要がある。大規模災害時における対応や、各種データのバックアップ体制等、役所機能を分散して補完、維持することが重要だと考えている。

Q 大手広場の再開発について、具体的にどのように考えているのか。

A 例えば大手での初市の開催や、屋台村の設置、祭りなどの各種イベントをできるような場所でもあってほしいと思っている。今後、庁舎建設とあわせて検討したい。

Q 憲法九条を守り、平和行政を維持するべきだと考えるが、市長の考えはどうか。

A 被爆県長崎に属する市の長として、戦争や核兵器の使用などの惨禍が再び起きないよう強く願っている。これまでもパネル展の開催や、懸垂幕を新たに作成するなど、反核、平和の啓発に取り組んでいる。